

社会福祉法人 福田会 週次報告書

2023年10月18日 / Vol. 055



ご支援総額

2023年10月15日までの寄付総額

126,387,310 円

寄付金使用総額

3395145.2 zł (約1億185万円)

10/1(月)～10/15(日)の期間中の寄附金使用額

7104.96 zł (約24万8千円)

10月1日(月)～10月15日(日)の支援活動

食材支援 (毎週金曜日) ※祝日等で変動あり

一人あたり50złの予算を設け、1週間分の昼食用食材の購入を支援。

10月6日(金) 23家族が参加 合計 3033.18 zł (約10万6千円)

10月13日(金) 21家族が参加 合計 2804.58 zł (約9万8千円)



今後の支援に向けた打ち合わせ

クラクフ市内にある、Zustricz財団を訪問し、今後の支援に向けた打ち合わせを実施した。

同財団は2013年から活動しており、ウクライナで起きた市民運動・ユーロマイダンでの悲劇的な出来事に直面した際の連帯の必要性に端を発し、支援行動の組織化と、東部での戦争の影響を受けたウクライナ人のための人道的援助を行っている。



現地の動向

10月に入り、ポーランドは最低気温が一桁台を記録し、一気に冬が近づいている。

ウクライナでは、昨年と同様にエネルギーシステムに問題を抱えており、長時間の停電が続く2度目の冬を迎えようとしている。

国連は6月、ウクライナの発電能力は、2022年2月のロシアの全面侵攻前のおよそ半分にまで減少したと推定した。

厳しい冬を乗り越えるための資金も時間もなく、何百万人ものウクライナ人にとって、光も暖房も水もない長い夜が続き、企業や経済全体にとっても苦しみが増えることになる。

夏の間はウクライナに帰国していた避難民も、越冬のため、一時的にポーランドに再避難してくることが予想される。

そのような避難民を受け入れるため、ポーランド国内ではシェルターの復興が進められている。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）は、18の公営住宅を改修し、暖房設備も完備させた。

2023年10月の時点で、既に9000人の避難民が恩恵を受けている。

また、避難所のための物品（マットレス、寝袋、毛布など）を必要な場合に可能な限り迅速に配布できるよう、物品の準備を整えている。



(出典：<https://reliefweb.int/report/poland/poland-rehabilitation-emergency-shelters-ensuring-access-adequate-shelter-refugees-11-october-2023>)